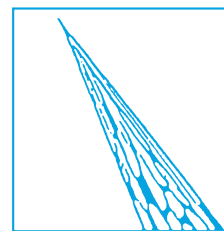


Liaison



(ホームページ <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

Vol.34 Oct. 2009



ブーゲンビリアが咲いていた
フリンダース大学中央図書館



リエゾン・ライブラリアンの責任者、
Beth Prior氏と高橋



フリンダース大学
キャンパス風景

Contents

- 表紙 / 目次 … 1
- 館長就任挨拶「館長室より」 / 図書館長 佐藤正樹 … 2
- 総合博物館中央図書館サテライト展示について～キャンパスまるごと博物館をめざして～ / 総合博物館 学芸職員 清水則雄 … 3
- フリンダースで見たダブルレインボー～フリンダース大学図書館研修報告記～ / 高橋弘子 … 4
- 署名が伝えること～佐々木基一文庫調査報告～ / 研究開発室 助教 赤迫照子 … 5
- 平成20年度図書館事業報告
 - ・図書館利用者アンケート報告書 / 尾崎文代 … 7
 - ・講演会・シンポジウム等 / 尾崎文代 … 9
 - ・地域・国際交流プラザ企画展示報告 / 西本篤夫 … 11
- 広島大学図書館統計 … 12

Hiroshima University Library

Liaison
vol.34
Oct.2009

館長室より

図書館長 佐藤 正樹

この四月に図書館長に任ぜられた。今でも図書館長は選挙で決めるという大学がいくつもあると聞くが、本学では学長から指名される。同僚がそれに同意するしないは問題ではない。まことに複雑な気分だが、ともあれ、目下は新米館長右往左往の日々である。なにより授業との両立が困難なことに悩み、教師として良心の呵責に苦しんでいる。

わたしは長いあいだ書物と図書館の恩恵をこうむってきたが、だからといって図書館のことを熟知しているわけではない。むしろ図書館を敷居の高い厳粛な場所だと、漠然とだが感じ、敬してやや遠ざけてきた。ましてや図書館の楽屋裏のこととなるとまったく知らなかったといっている。当然、館長になってはじめて知ることばかりである。だから、新米館長右往左往だというのは、身体的な意味だけではない。

先日「ブックハンター」委嘱状の伝達式を館長室で行った。これも館長になってはじめて知った制度だ。これを「書物狩り」と訳してみると、まことに不穏当にして由々しき事態である。けしからん書物を摘発して焚書となすべき役人を任命するかのごとき剣呑な気配を感じる。いや、実はそうではなく、学生諸君の目で本を選んでもらい、それを本学図書館の蔵書とする、そういう大切な役目を学部一年生20人に委嘱したのだ。応募してくれた学生が350人いたという。たいへんな競争率である。^{いち}一日、広島市の紀伊國屋書店で学生たちが自由に本を選ぶ。書店にはご迷惑をおかけするが、ありがたいことである。

さて、わたしが驚いたのはこの350人という応募者数である。書店を一巡りすると、自分の感性が目覚めるような気がする。いま関心をいだいている分野の前で立ちどまって本をながめ、事情が許せば財布の紐をゆるめる。しかし、かならずしも関心の分野とはいえなかった本にもふと出会い、ときにはその一冊を手にとってみると、これが意外におもしろい。こんな偶然の出会いは日常茶飯だが、そのとき自分の感性はわずかに拡大され、豊かになる。この350人は、そのときの軽い胸のときめきを知っているのだ。書物の第一ページが未知への冒険の旅立ちであることを彼らは予感するのだ。

それだけではない。選んでも自分の蔵書とはならない。大学の蔵書となるにすぎない。しかし、自分の感性のおもむくがままに選択した本でも、広島大学のほかの学生たちに読んでもらえるかもしれない、大学の蔵書も多彩になる。なんでも自分が自分が、としゃしゃり出るわけでもなければ、自分のものにならなければいやだとわがままをとおすでもない。自分も楽しめる、ほかの人も楽しめる、本の選択に自分の意思や好みを主張でき、同時に母校となる大学にも自分の足跡を残し、かつ恩返しにもなる。大学図書館の蔵書の欠を補う大事な役目でもある。——こんな感覚は今の時代にはとくに大切だとわたしは思う。片仮名語は好まないが、こんなすてきな「狩り」なら大賛成だ。委嘱状を手渡すとき、わたしは狩人一人ひとりの予感にみちた、しかしけって深刻でない瞳をのぞき込んで、ひそかに楽しみ、うらやましくも思った。

この「狩り」は大学図書館の新しい性格の一つである。たしかに、万卷の書を取りめる大図書館に利用者が出かけていって本を手にとる、この風景は昔も今も変わらない。しかし大学図書館はこの「狩り」のような新しい性格をつぎつぎと身にまといていく過程にある。館員は図書館の果たすべき役割と果たしうる役割の可能性について知恵をしまり、体を動かして実行している。その活動の多彩さは驚くばかりだ。そのうえ、人手不足にもかかわらず、図書館が提供する可能性について懇切に教示するための館員さえおいている。これは他に誇りうる試みだという。

もっとも、図書館はわたしにとってまことにロマンティックな場所だった。学生時代には謹厳な司書が学問の番人のように見え、そのすがたに憧れもし、やや気後れもした。書庫に入れば、本のにおいとほこりを吸い込むが、それと一緒に人類の歩んできた長い長い時間をも吸い込むことになる。ライブニッツ、ショーペンハウアーこのかた、図書館は「人類の記憶」と称されてきた。しかも図書館はゆうに5000年の歴史をもつ。広島大学図書館にも、不十分だが、「人類の記憶」の少なくとも一部が大切に保管されている。人類は現在と未来とを生きるために過去を必要とする。すべてのものに歴史がある。図書館はその証言集なのである。わたしたちにとって先人の恩恵をこうむっていないものなど何一つ存在しない。ゲーテがそう言っているのだからまちがいない。

だからこそ、大小と新旧とを問わず、図書館には敬意が払われてきたのだ。館長室が広々とつくられているのは、お



そらく大学が図書館にたいして払うなみなみならぬ敬意のあかしであろう。他方でわたしは「狩り」に応募してくれた350という数字に勇気を与えられ、若い彼らの新しい感性と要求水準もまた図書館の性格をしだいに变化させていく力の一つになるのだらうと考えた。と同時に、彼らがこだわりなく、軽やかな足どりで図書館に接近するのをうらやましくも感じるのである。彼らにとって図書館は、大学のごくあたりまえの風景のなかに溶けこんでいる。おそらく「人類の記憶」は、学問の一朝一夕にしてならぬ厳しさと、それはだれにでも開かれているのだという親しげな表情とを、彼らにみせている。「人類の記憶」にたいする敬意は親しみを拒みはしないのだ。

さりながら、わたしは今もって館長室の椅子にすわることができない。わたしのような一知半解の学者モドキには少々荷が重い。一方に、学生のころ脳裏に刻まれた歴史にたいする崇敬と図書館への敬意、そしてあのときの謹厳な司書の眼光にたいする畏れがあり、他方に、変貌する新しい図書館の日々のいとなみがある。そのあいだで、新米館長は右往左往の日課をこなしている。

総合博物館中央図書館サテライト展示について ～キャンパスまると博物館をめざして～

総合博物館 学芸職員 清水 則雄

キャンパスまると博物館

総合博物館は、キャンパスをまると展示する「キャンパスまると博物館」です。博物館本館は、「広島大学の過去・現在・未来」「宇宙・地球」「里山」「里山」の四つの展示パートからなっています。まず、広島大学の歴史にはじまり、化石を中心とした宇宙・地球史、瀬戸内海の藻場・干潟の豊かさ、西条盆地や中国山地の自然についての展示をしています。博物館本館では、外部のお客様にもわかりやすいように約550点の学術標本を中心に、ストーリーに沿って展示しています。さらに、「より専門的な展示を!」というニーズに対応して進めてきたのがサテライト館構想です(図1)。

広島大学の研究科数は、全国2位(12研究科)を誇ります。その多様な専門性を活かし、各局に展示スペースを設けることで、キャンパスをまると博物館とみなす考え方です。2006年11月の本館開館に続いて、2007年に生物圏科学研究科サテライト館を開設しました。ここでは、家禽類で唯一の天然記念物に指定されている「尾長鳥」の剥製や、道産子馬の全身骨格標本、エチゼンクラゲの発生メカニズムに関する展示やサンゴ礁水槽を展示しています。また、同年にキャンパス内から出土した土器や石器などの考古遺物約10万点のうち選りすぐりの200点を展示した埋蔵文化財調査室サテライト館も開設しました。2008年には、世界的にも注目を集める角筆資料や国内外の考古遺跡から出土した土器・刀剣類・墳墓・人骨などのコレクションを展示する文学研究科サテライト館と世界有数の蘚苔類コレクションである国際標本群「HIRO」や岩石・鉱物標本を展示する理学研究科サテライト館を開設しました。その第五弾として、この度、図書館のご理解とご協力により、中央図書館にサテライト館を開設することができました。

日野化石コレクション

中央図書館サテライト館では、広島市在住の日野渉氏から、本学に寄託されているアンモナイト・三葉虫・哺乳類・魚類・植物などの白亜紀の化石コレクション約100点を展示しています。特に、巨木が宝石のように輝く化石となった「珪化木」や、体長5mを越すと言われるナメケモノの腕の化石は、ほぼ完全なもので、圧巻です。恐竜の糞の化石などもあります。これらの化石は、中央図書館を訪れる方々に、太古の生物の進化を感じていただくだけでなく、博物館本館に展示する化石コレクションに誘導する効果も期待しています。



図1 総合博物館の構成と機能



日野化石コレクション展示外観



東広島キャンパスの自然「集合展示(右)と珪化木(左)」

発見の小径

ライブラリーホール入口横には、「東広島キャンパスの自然」と題する展示もあります。東広島キャンパスは、約250万平方メートルという日本屈指の広大な敷地を有すキャンパスです。キャンパス内には、ががら山、陣が平山、山中池、ぶどう池、門脇川など、現在でも多様な自然環境が残り、今では失われつつある里山の自然も身近にみることができます。このなかには、約30種を超える絶滅危惧種も生息しています。これらの自然環境の現状を知り、保全・活用していただくために、自然散策道「発見の小径」も整備しています。この展示では、キャンパス内で見られる野鳥や哺乳類、昆虫などを配置した集合展示を作成し、発見の小径の紹介を行っています。散策マップも配布していますので、お近くにお越しの際は、是非、足を運んで学内散策にご活用下さい。きつとなにかの発見に出会えるはずです。



哺乳類化石展示

フリンダースで見たダブルレインボー ～フリンダース大学図書館研修報告記～

図書学術情報普及グループ 東広島地区フロアサービス担当 高橋 弘子

INU Shadowing Program

日本では立命館大学と広島大学が参加している国際的大学間コンソーシアム INU（International Network of Universities）の管理職・シニア職員向け研修、シャドウイングプログラムにトライしてみないかと当グループの江森リーダーから相談があった時、訪問したい気持ち（以下）と、英語が苦手ととても務まらないという思いで一瞬頭の中が錯綜した。

- ・当時、利用者の質問に答える参考調査を担当する、調査相談サービス担当にいたため、先進の参考調査業務、特に、リエゾン・ライブラリアンの仕事に直に触れたいと思ったこと
- ・当館でもパソコン利用と図書館機能がより一体化した利用空間（図書館でいうラーニングcommonsまたはインフォメーションcommons）を提供することの検討時期に差し掛かっており、この時期にサービス体制を内側から見るができること

結局、自分の英語力は全く棚に上げ、ラーニングcommons先進国オーストラリアの大学、その夏に Flinders 大学図書館の Chris O'Malley 氏が当館で研修をされるため訪問前に情報が得られると、自分に都合のいい言い訳をして、訪問先をアデレイドのフリンダース大学図書館として手を挙げた。

For your English improvement

昨夏のフリンダース大学のオマリー氏の大活躍は本誌リエゾン33号に詳しいが、彼は広島大学図書館に貢献してくれただけでなく、なんと私の英語の研修指南役まで買って出てくれた。学期中忙しく受入条件書の精読ができず、彼の滞在期間後半になって知った、「受入大学はプレゼンテーションの機会を与える」＝フリンダース大図書館職員へ英語でプレゼンをしなくてはならないということが分かった時は驚天動地で、その内容の相談にもものってもらった。申請手続きでは学術室 国際企画連携グループに全面的にサポートしていただき、また同僚の理解を得て、なんとか11月17日から28日の研修に旅立った。

We are similar

クリスから得られた情報からも、現地での印象でも広島大学とフリンダース大学は似ていた。オーストラリアは国が運営する大学は The Australian National University のみであり、州と国が運営する公立大学が各州に設置されていてフリンダース大学はそれにあたる。

サービス対象の構成員数、学部数等大学規模も同程度であり、プレゼンテーションのための準備でわかったことであ



図書館員の皆さんと



フリンダース大学図書館

るが、全世界の大学ランキングでは定評のある、雑誌 Times Higher Education Supplements における、2008年版ではフリンダース大学273位、広島大学267位ではほぼ同位であり、しかもフリンダース大学は毎年ランクアップしている、まさに上げ潮の大学だった。

現地でわかったが、大学が都市郊外にあり、池のまわりに建物が配置されており自然に恵まれていた、何より学内に数図書館を置いてサービスにあたるというモデルが似ていた。

同様のサービス形態をもち一歩先を行く大学図書館に訪問出来たことは非常に幸運だった。

So Organized

フリンダース大学キャンパスの中程にある池の側で食事をとろうと歩いていたら、芝生に座って食事をしていたクリスと一緒にどうと声をかけてくれた。持っていたハンカチを敷いて座ったら彼が Organized と言って褒めてくれた。彼も私もニヤリとしていたと思う。前日の研修受講時に隔々まで配慮され、うまく組織されていることを伝えたいにもかかわらず適当な言葉が分からずに、システムティックと言ってしまったが、クリスがすかさず so organized と訂正してくれていたのだった。私が、フリンダース大学図書館の組織運営、サービス活動、そして私の研修プログラムに関する配慮に対して持った印象が正にこの organize された状態だった。

私の滞在プログラムについてもコンタクトパーソンの Helen Culshaw 氏により、各部署担当による業務説明、館員による教職員講習会参加、館内研修を織り交ぜることなど各部署の活動が総合的に把握出来るよう、細やかに配慮されて組まれており、素敵に organize されていた。

Fruits or Seeds

この研修がもたらしてくれたものはあまりに多く、全てを記せない。

成果があがるはずの、私の英語力は申し訳なくも相変わらずであるが、ただ対応で困ったと思わない妙な度胸がついた。最も確実な成果は個人用パソコン使いの進歩だった。成田空港でのウェブメール投稿、学内無線 LAN アクセス、広島大学への VPN 接続、パワーポイントを使った英語によるプレゼンテーション、ホテルでのブロードバンドなどを体験した。何より絶対持たないと思っていた個人用パソコンを持って使うようになった。

彼の地のサービスについても、ラーニングコモンズ（分館への設置過程であり、プランニングの話も伺うことができた）、電子的コースリザーブを含めたりエゾンライブラリアンのサービス活動などなど、前館長を引き継いだ Ian McBain 氏のもと確実に展開されていた。

しかし、それ以上に大きかったのは、図書館員としての高い志をもち、利用者サービスに心を砕いているスタッフが彼の地にもいて、それは日本もオーストラリアも全く同じだという強い確信だった。

説明を受けることのできた先進的サービスそれぞれについて、我々が実現可能か、生かす手立てが無いかを考えることが課題だと思っている。

二重の虹

研修最終日は学期最終日でもあって前日まで夜間開館されていたが閉館時間が早まっていた。

スタッフのホスピタリティと細やかな配慮に感謝しつつ、半面自分の至らなさを思うとやりきれなかったが、その気持ちを封印するようにあたふたと荷物を片付けバスに乗ろうとバス停へ降りて行ったら、雨上がりの空に虹が掛った。

それも今まで一度も見たことがなかった二重の虹。

ダブルレインボーは見た人に幸福をもたらすと言われている。それは私を祝福してくれているようにも思え不覚にも涙した。しかし、今になってあの虹は研修後の私を激励してくれていたように感じている。

Acknowledgements

最後にこの研修参加のために腐心してくださった INU 事務局、本学学術室国際企画連携グループ、当館、フリンダース大学事務局、フリンダース大学図書館スタッフ、ご協力いただいた全ての方へこの場を借りて心から感謝の気持ちを表したいと思います。

署名が伝えること ～佐々木基一文庫調査報告～

研究開発室 助教 赤迫 照子

平成9年、文芸評論家佐々木基一（大正3〈1914〉～平成5〈1993〉）の蔵書約9,000冊が広島大学図書館に寄贈された。これらは佐々木基一文庫と名付けられた。この文庫には、佐々木と親交のあった人々からの署名入り献呈本が多数存する。そこで平成20年7月、研究開発室と館内に設置された特殊コレクション整備委員会（折原善彦・上田大輔・大園岳

雄・寺見俊昭・中原美奈・野村和子)で調査を行った。調査は書架から図書を一冊ずつ手に取り、署名の有無と、誰による署名なのかを確認するものである。その結果、署名入り献呈本は約900冊にもものぼることが判明した。

冊数もさることながら、署名を記した面々も注目される。雑誌『近代文学』『綜合文化』同人であった荒正人・野間宏等はもちろん、安部公房・井上光晴・石川淳・井上靖・江藤淳・遠藤周作・大江健三郎・大田洋子・岡本太郎・小川国夫・開高健・加藤周一・木下順二・清岡卓行・黒井千次・小島信夫・小林秀雄・佐多稲子・島尾敏雄・瀬戸内晴美・高橋和己・武田泰淳・武田百合子・辻邦生・寺田透・土門拳・中野重治・中村真一郎・福永武彦・藤枝静男・堀田善衛・三島由紀夫・安岡章太郎・山本健吉・吉本隆明等である。佐々木基一の人脈の豊かさが伺えよう。佐々木基一文庫の蔵書体系そのものが、戦後文壇の相貌を呈しているのである。私は彼らの署名の迫力に圧倒されるとともに、当文庫の適切な保存及び公開の重要性について、改めて考えさせられた。

早速、署名入り献呈本は貴重資料に準じるものとして「禁帯出」に指定し、館内閲覧のみとする措置を行った。また、この調査結果を広く紹介するべく、9月27日(土)～10月5日(日)に広島大学図書館・広島市立図書館提携記念企画展示(於 広島市立中央図書館)にて、大江健三郎『ヒロシマノート』(岩波書店 昭和40(1965))や遠藤周作『イエスの生涯』(新潮社 昭和48(1973))等を展示した。さらに11月1日(土)～16日(日)には「佐々木基一文庫展 署名本の魅力—安部公房・三島由紀夫・小林秀雄—」(於 中央図書館地域国際交流プラザ)として、署名本や自筆原稿等計53点を展示した。来場者数は677名であった。その後、平成21年8月7・8日の2日間にオープンキャンパスが開催されたのを機に、再び「佐々木基一文庫展」を行った。これはオープンキャンパス企画展示「廣大図書館の展示ダイジェスト2008」の内のひとつ、という位置付けであったので、前回展示より小規模となり、展示数は17点にとどまったが、展示会場の中央図書館地域国際交流プラザには2日間で約900名もの来場があった。これらの展示について、学内外から様々な反響があった。特に、学内からは「広島大学にこのような宝があったのですか」という驚嘆の声があがった。

この「宝」の整理及び展示作業は「業務」というには余りにも贅沢な時間であった。有名作家の自筆署名一つ一つに触れながら、献呈した時のやりとりを思い浮かべていると、作業中も時が経つのを忘れてしまった。例えば、開高健『見た揺れた笑われた』(筑摩書房 昭和39年(1964))には「佐々木基一様」とある横に、「オ会イシタイト思イナガラツイ、ツイ…」とメッセージが記されている。署名本というよりも、まるで「手紙」である。なお、開高健は佐々木基一と親交が深く、共編『わが内と外なるヒトラー』(講談社 昭和49年(1974))がある。また、井上光晴の署名はスタイルが多彩で目を奪われた。中には青のマジックによる大胆な署名もあった。筆跡の力強さが印象深かったのは、土門拳『ヒロシマ』(研光社 昭和33年(1958))である。土門拳は佐々木基一が広島県出身だと知っていたはずである。どのような思いで、この写真集を献呈したのであろうか。そして佐々木基一は、土門拳にどのような言葉を送ったのであろうか。このような想像をしつつ、さてどれを展示しようかと迷う時間すらも、楽しいものであった。

これら署名入り献呈本の利用は館内閲覧に限られるが、各々の署名が持つ独特の表情を、是非多くの利用者に味わっていただきたいと願っている。そして今後も、署名の魅力を伝えられるよう、面白い展示を企画・実施していきたいと考えている。



佐々木基一 (寄贈された写真から)



オープンキャンパス終了後も引き続き
8月26日まで展示を開催した。

佐々木基一プロフィール

ながい ぜん じろう
本名永井善次郎。広島県三原市本郷町出身。広島高等師範附属学校、山口高等学校を経て、東京帝国大学美学科を卒業。卒業後は文部省社会教育局映画課、日伊協会に勤務。「夏の花」等で知られる作家の原民喜は姉貞恵の夫にあたる。マルクス主義文学に傾倒し、昭和21年(1946)に平野謙・本多秋五・埴谷雄高・荒正人・小田切秀雄・山室静と雑誌『近代文学』を創刊。昭和23年(1948)には花田清輝・野間宏等と雑誌『綜合文化』を創刊。『同時代作家の風貌』『私のチェーホフ』(平成2年(1990)野間文芸賞)等の文芸評論のほか、芸術論や映画批評も多数あり、多才ぶりを発揮した。小説には『停まれる時の合間に』『まだ見ぬ街』『時の音』など。昭和31年(1956)年、中央大学に着任。文学や映画論等の授業を担当する。昭和60年(1985)に退職。中央大学図書館は自筆原稿と自著『戦後の作家と作品』を所蔵する。

平成20年度図書館事業報告

平成20年度図書館利用者アンケート報告書

図書館学術情報企画グループ 企画調整担当 尾崎 文代

1. 目的

昨年度に引き続き、利用者の満足度を調査し今後の図書館サービス展開の参考とするため、全学の図書館利用者を対象にアンケートを実施した。

2. 実施方法

平成21年1月13日から2月13日までの期間、図書館ホームページにアンケートページを設置し、以下の方法で利用者に回答を依頼し、集計した。

- ・学生「もみじ（掲示板）」にアンケート回答依頼文書を掲載。（2回）
- ・教員 各部局の部局長支援グループにアンケート回答依頼文書の送付を依頼。
- ・教職員 電子掲示板にアンケート回答依頼文書を掲載。

3. 回答数

- ・437
- ・利用者区分別回答数

	回 答		在籍者比回答率	
	件 数	構 成 率	在籍者数	回 答 率
学部学生	215	49.2%	11,077	1.9%
留学生（学部学生）	1	0.2%		
大学院生	88	20.1%	4,513	2.2%
留学生（大学院学生）	1	0.2%		
研究生	1	0.2%	327	0.3%
教員	113	25.9%	1,814	6.2%
事務・技術系職員	17	3.9%	1,476	1.2%
その他	1	0.2%	—	—
計	437	100.0%	19,207	2.3%

4. 回答結果概要

あなたは、次のどの図書館を利用しますか。

回答者全体では、中央図書館41%、東図書館11%、西図書館33%、霞図書館11%、東千田図書館3%、利用しない1%となった。

あなたは、図書館をどの程度利用していますか。

回答者全体では、40%の人が図書館を週に2－3回利用している。利用者区分別では学部学生は約60%、大学院生が36%、教職員は13%となっている。

あなたは、図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか

回答者全体では、専門教育関連図書の充実を挙げた人が最も多く（26%）、次いで電子ジャーナル（15%）、教養教育関連図書・国内雑誌（12%）となっている。昨年同様に学部学生は専門教育関連図書の充実を求める声が多く（34%）、大学院生・教職員は電子ジャーナルの充実を上げる声が多い。（15%・27%）

その他として、小説・郷土資料・附属学校の出版物・博士論文・貴重書など。

あなたは、図書館の環境についてどう思われますか

空調・情報環境について約30%の回答者が不満・やや不満と答えており、コピー機の約20%とともに昨年度の調査と同様の回答となった。他、照明・資料配置・閲覧席・案内板等・静寂性・安全性についての不満度は約10%前後であった。図書館利用率の高い学部学生が最も環境に関して不満率が高いこともわかる。

→空調

機器の老朽化によって冷房は全館で利が悪く、暖房も温度調節が難しい状況です。できるだけ環境に合わせた運用

をこころがけておりますが、少しでも快適な学習環境を提供できるように努力し、設備の改修を引き続き要求していきたいと考えています。

→情報環境

平成22年度には相当数のパソコンが中央館に備え付けられる予定です。また、学習利用に相応しい情報環境の構築を引き続き進めていく計画としています。

→コピー機

平成20年度には中央・東・東千田図書館のコピー機を、コイン・カード併用に各一台切り替えましたが、さらに多くの切り替えが可能かどうか検討中です。

→静寂性

図書館での静寂性を保つため職員の巡回強化、マナーについての掲示・サインによる注意の喚起を実施しています。

→資料の配置

サイン等を見直し、わかりやすいマップの作成を検討しています。開館時間内の書架整備を増やし、徹底を図りたいと考えています。また、中央図書館書庫は統合し、完全に請求記号による配列とする計画を検討中です。

→案内板等

効果と美観の両面から見直しを図りました。

あなたは、学習のために図書館にどのようなスペース等があるとよいと思われますか

回答者全体では、静寂な個室（34%）、グループ学習スペース（23%）、作業スペース（21%）を挙げる声が多くあった。静寂な個室を求める声は学部学生に多く（38%）、グループ学習スペースは教職員に多い（25%）。

あなたは、図書館の貸出冊数についてどうと思われますか

あなたは、図書館の貸出期間についてどうと思われますか

回答者全体の「やや不満・不満」の回答は、貸出冊数（6%）・貸出期間（10%）である。

→平成20年度より視聴覚資料の貸出を開始し、多くの方にご利用いただいています。貸出期限・冊数増加のご要望については、他の利用者の利用を妨げない範囲での拡大の方策を検討していきたいと考えています。

あなたは、図書館の開館時間についてどうと思われますか

回答者全体の「やや不満・不満」の回答が、昨年度約30%であったが、今年度は開館時間の延長に伴い、20%に減少している。

あなたは、図書館の開館日についてどうと思われますか

回答者全体の「やや不満・不満」の回答が、昨年度約25%であったが、今年度は開館時間の延長に伴い、20%に減少している。

→開館時間の延長については、平成19年度の試行に続き、平成20年度には中央館で平日・土日を各1時間、霞図書館で土日各1.5時間の延長を実施しました。さらに利用者の皆様に満足いただける形に近づくように検討していきたいと思います。

あなたは、図書館の職員についてどうと思われますか

応対について「やや不満・不満」の回答が約8%程度寄せられたが、概ね良い評価であった。

→図書館職員は図書館の質を決定する大事な要素ということを職員全員がしっかり自覚し、研修等の徹底（常勤・学生バイトとも）などによって、スキルアップ、対応の円滑化に努めていきたいと思います。

あなたは、次の図書館サービスを利用したことがありますか

最もよく利用されているのがOPAC（93%）であり、次いで、書庫利用（72%）、利用案内（67%）、電子ジャーナル（52%）、データベース（45%）、文献複写（43%）、レファレンスサービス・webからの文献複写・図書借用申込（42%）がよく利用されている。「やや不満・不満」の回答の中には、電子ジャーナル・データベースを充実してほしい、OPACの検索方法への要望、書庫が暗くわかりにくい、などの声があがっている。

また、「利用したことがない・知らなかった」という回答では、他大学訪問利用（94%）、図書の購入リクエスト（76%）、地域国際交流プラザ（70%）が高く、今後認知度をあげていく必要がある。

→電子ジャーナル

平成21年4月より、電子ジャーナルへの誘導ツールであるリンクリゾルバ（SFX）のご利用が可能になりました。ご活用ください。

→OPAC

平成20年度より、図書館別検索が可能になりました。また、他館より搬送中の図書が状態表示され、返却時のタイムラグを把握できるようになりました。今後は利用ガイドの早急な完成を目指します。また、随時、改善の検討を加えていきたいと考えています。

→講習会

より適切な時期に適切な内容のプログラムを提供するために、全体的な構造化を図っています。時間帯等のご希望にもできるだけお応えできるよう、努力いたします。

→ILL

図書借用の際に、長く借用可能な大学へ依頼するなどの地道な努力を行い、利用者の皆様の便宜をはかっていきます。

→学術情報リポジトリ

コンテンツの充実を望むご意見をいただき、今後も積極的な収集をはかっていきたいと考えています。皆様の一層のご協力をよろしくお願いいたします。また、認知度を上げるためにこれからも広報に努めていきたいと思っています。

→地域国際交流プラザ

下記 URL をご参照いただき、ますますのご利用をよろしくお願いいたします。

http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/plaza/chiki-kokusai_plaza.html

あなたは、図書館の広報（図書館報リエゾン、メールマガジン等）を見たことがありますか

教職員の認知度は約70%と高いが、学部学生は約30%と低く、「見たことがない・知らない」回答が全体として約65%あった。メールマガジンの頻度の低さ、印刷物としての必要性の低さを問う回答もあった。

→内容・形態・頻度については、検討を重ねていきたいと思っています。

あなたは、図書館のホームページ（パソコン・携帯版）にアクセスしたことがありますか

パソコンからのアクセスは88%、携帯電話から15%あり、昨年度から携帯版が4%増えている。内容は概ね良い評価であった。

利用者の皆様から多数いただきました貴重なご意見を図書館職員全員で共有し、今後の図書館サービスの改善・充実のために、有効に活用していきたいと考えています。
ご協力ありがとうございました。

なお、図書館利用者アンケート報告書の全文は図書館ホームページの「図書館活動成果」からご覧いただけます。

URL： <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/gaibuhyoka/enquete/2008.pdf>

講演会・シンポジウム等

図書学術情報企画グループ 企画調整主担当 尾崎 文代

平成20年8月以降、広島大学図書館が開催した講演会をご紹介します。学内外から多数のご参加を頂きました。（講師等の所属は開催当時のものです。）

1. 広島市立図書館・広島大学図書館提携記念講演会「図書館から世界が見える」

日 時：平成20年9月20日（土）

会 場：広島市立中央図書館セミナー室

主 催：広島市立図書館 広島大学図書館

講演1：「図書館からの贈り物－文化人類学の立場から－」

高谷 紀夫（広島大学副理事、エクステンションセンター長）

講演2：「『ハックルベリーフィンの冒険』から見えるアメリカ」

田中 久男（広島大学図書館長）

2. DRF/Share 地域ワークショップ（中国・四国地区）

「機関リポジトリの拡大を目指して：知識の共有と共同構築」

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF%2FShare-Hiroshima>

日 時：平成20年10月29日（水）－30日（木）

会 場：広島大学図書館ライブラリーホール

主 催：DRF－機関リポジトリの活性化プロジェクト（代表機関：北海道大学附属図書館）

ShaRe－共同リポジトリプロジェクト（代表機関：広島大学図書館）

共 催：国立情報学研究所・広島県大学図書館協議会

協 賛：中国四国地区大学図書館協議会

機関リポジトリ実務研修

「機関リポジトリ概論」「周辺の動向・関連技術」杉田茂樹（北海道大学附属図書館）

「事業戦略とコンテンツ構築」大園隼彦（岡山大学附属図書館）

「機関リポジトリと著作権」上田大輔（広島大学図書館）

「著作権処理実習」深川昌彦（山口大学情報環境部）

「研究者へのアプローチ」鈴木雅子（小樽商科大学附属図書館）

講演1：「国立情報学研究所の機関リポジトリ支援戦略」

安達淳（国立情報学研究所学術情報基盤推進部長・コンテンツ科学研究系教授）

講演2：「NII 学術機関リポジトリ構築連携支援事業」

杉田いづみ（国立情報学研究所学術情報基盤推進部）

共同リポジトリ構築事例報告

「ShaReプロジェクトの紹介」森保信吾（広島工業大学附属図書館）

埼玉地区 村田 輝（埼玉大学図書館）

岡山地区 大園 隼彦（岡山大学附属図書館）

山口地区 吉光 紀行（山口大学情報環境部）

長崎地区 飯島 芳典（長崎国際大学図書館）

広島地区 渡辺さゆり（日本赤十字広島看護大学図書館）

山形地区 三角 太郎（山形大学図書館）

3. ワークショップ 新しい学術情報利用システムを考える

「大学における教育・研究活動と電子リソース利用の現在」

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/topics/090129ws.html>

日 時：平成21年1月29日（木）

会 場：広島大学図書館ライブラリーホール

主 催：国立大学図書館協会中国四国協会

共 催：中国四国地区大学図書館協議会・広島県大学図書館協議会

講演1：「NII Goes Open! 新CiNii, 新KAKEN,次世代目録」

大向 一輝（国立情報学研究所）

講演2：「書籍と学術論文の検索サービス：グーグルブック検索とグーグルスカラー」

佐藤 陽一（グーグル株式会社）

講演3：「NDLデジタルアーカイブポータル（PORTA）の現状と将来」

柴田 昌樹（国立国会図書館関西館）

事例報告1：「タクソノミー、キーワード検索、そしてフォークソノミー」

平川 正人（島根大学総合理工学部）

事例報告2：「社会連携事業における検索エンジンの利用と期待」

北條 充敏（岡山大学附属図書館）

事例報告3：「学術情報マネジメント、ERMS、次世代OPAC」

片岡 真（九州大学附属図書館）



DRF/Share 地域ワークショップ



大学における教育・研究活動と
電子リソース利用の現在

地域・国際交流プラザ企画展示報告

図書学術情報普及グループ 地域交流主担当 西本 篤夫

展 示 名	主催者	開催期間	入場者数	備 考
北極の博物学 ―北緯79度 スバルバルの自然―	広島大学総合博物 館	平成20年 4/11～27	1,061人	広大の研究者がフィールドで集めたお 宝を広く公開するため開催した。
広島大学ユニセフ写真展	日本ユニセフ協会 広島県支部	6/3～13	747人	アフガニスタンの子どもたちの様子や ユニセフの緊急支援活動の紹介
第2回東広島観光展	東広島市観光協会	6/21～7/6	1,836人	4年間で東広島で過ごす学生と多くの 市民に東広島の魅力を広く知ってもら う。
地域・国際交流展 ～グロー カルをめざす広島大学～	留学生センター	7/11～27	677人	広島在学留学生の出身国・地域交流紹 介と留学生センターの事業紹介
図書館オープンキャンパス 企画展示「広大と図書館の 100年」	図書館	8/7～8	1,251人	高校生への図書館紹介
原爆と戦争展	原爆展を成功させ る広島の会	10/16～28	895人	パネル展示を通じて、主に学生と被爆 体験者の交流の機会を設け、平和な社 会の建設に寄与する。
佐々木基一文庫展「署名本 の魅力 ―安部公房・三島 由紀夫・小林秀雄―」	図書館	11/1～16	677人	広島大学図書館蔵佐々木基一文庫の中 から、有名作家の署名献呈本を展示し 広く一般に公開することにより、広島 大学図書館への関心・興味を深めても らう。
三次市・北広島町・世羅町 観光展 ―包括協定締結記 念―	三次市・北広島町・ 世羅町	11/21～ 12/7	737人	広島大学と包括協定を締結している三 次市・北広島町・世羅町の地域情報、 観光情報を展示し、広島大学における 各自自治体の理解、相互の連携を深める 契機とする。
鶴田真由写真展「アフリカ と私」	キャリアセンター	12/10～19	716人	広島大学キャリアセンター現代G P フ ロントランナープログラム国際協力W E E Kのイベントの一つとして、写真 展を開催した。
「広島大学アクリル水彩同 好会」卒展	広島大学アクリル 水彩同好会	平成21年 1/9～25	726人	同好会の卒業予定者が、アクリル水彩 同好会での活動の成果を発表するため に卒業記念の展示会を開いた。
			計9,323人	

展示企画を募集しています。場所は中央図書館「地域・国際交流プラザ」です。

お問い合わせ先

図書学術情報普及グループ 地域交流主担当 内線：6207

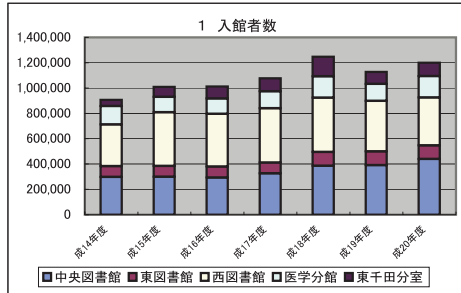
E-mail：tosho-fukyu-chiki@office.hiroshima-u.ac.jp

図書館ホームページ→「利用案内」→「地域・国際交流プラザの利用」を御参照ください。

広島大学図書館統計

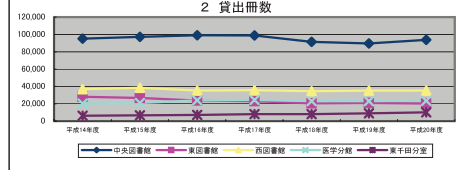
1 入館者数

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館	298,582	298,810	293,405	326,966	386,372	391,537	440,330
東図書館	84,714	86,232	85,926	84,628	108,278	108,946	106,789
西図書館	329,627	423,767	416,297	429,372	429,052	397,956	378,760
医学分館	145,019	121,231	122,059	133,778	168,632	133,688	168,193
東千田分室	48,510	78,763	93,847	102,147	153,974	94,371	104,949
計	906,452	1,008,803	1,011,534	1,076,891	1,246,308	1,126,498	1,199,021



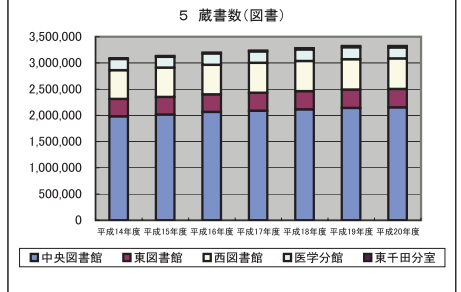
2 貸出冊数

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館	95,034	97,263	99,006	98,698	91,538	89,684	93,857
東図書館	28,022	26,798	23,807	23,073	20,414	21,039	20,358
西図書館	36,757	38,382	35,353	35,725	34,585	35,308	35,215
医学分館	20,155	20,955	23,879	24,377	22,998	23,067	23,405
東千田分室	6,206	6,614	7,056	7,947	8,072	8,986	10,064
計	186,174	190,012	189,101	189,820	177,607	178,084	182,899



3 文献複写(相互利用(受付・依頼))

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館(受付)	5,290	7,531	7,261	5,387	4,117	3,560	3,689
(依頼)	5,752	6,335	5,172	5,566	6,835	6,472	6,992
東図書館(受付)	2,602	2,208	2,319	1,028	748	720	579
(依頼)	1,903	1,853	788	1,067	1	0	0
西図書館(受付)	3,176	2,669	2,192	769	703	521	485
(依頼)	1,858	1,305	1,107	808	0	0	0
医学分館(受付)	6,754	6,252	5,059	4,173	3,221	3,160	3,087
(依頼)	5,748	4,264	3,508	3,609	3,745	3,399	2,510
東千田分室(受付)	140	146	74	63	44	61	93
(依頼)	333	640	1,263	1,001	969	842	1,412
計(受付)	17,962	18,806	16,905	11,420	8,833	8,022	7,933
(依頼)	15,594	14,397	11,838	12,051	11,550	10,713	10,214

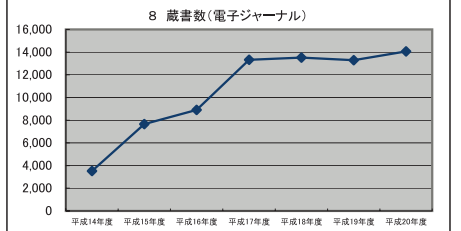


4 相互貸借(貸出・借受)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館(貸出)	649	922	915	1,115	1,115	1,065	1,057
(借受)	1,348	1,308	1,342	1,394	1,599	1,640	1,704
東図書館(貸出)	67	63	104	56	133	151	159
(借受)	51	62	142	69	106	151	149
西図書館(貸出)	352	423	357	376	409	389	358
(借受)	219	182	358	368	341	298	244
医学分館(貸出)	76	120	129	177	133	190	233
(借受)	218	190	350	426	472	514	393
東千田分室(貸出)	151	172	161	229	199	246	325
(借受)	354	461	504	796	707	621	641
計(貸出)	1,295	1,700	1,666	1,953	1,989	2,041	2,132
(借受)	2,190	2,203	2,696	3,053	3,225	3,224	3,131

5 蔵書数(図書)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館	1,981,177	2,015,835	2,062,525	2,087,915	2,114,475	2,140,865	2,150,501
東図書館	330,280	333,473	337,786	341,942	346,393	350,339	352,455
西図書館	549,504	558,993	564,325	569,763	574,515	580,159	582,767
医学分館	212,501	206,905	213,789	216,993	221,596	225,318	207,273
東千田分室	17,080	18,620	20,761	22,347	24,423	28,318	31,893
計	3,090,542	3,133,826	3,199,186	3,238,960	3,281,402	3,324,999	3,324,889

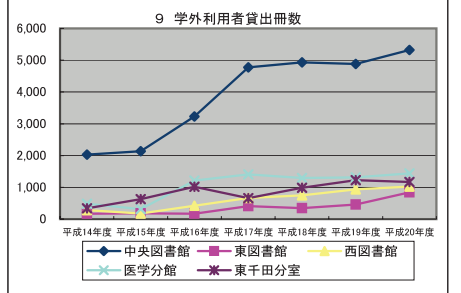


6 蔵書数(雑誌)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館	30,163	32,206	32,224	32,545	33,090	33,452	30,148
東図書館	9,355	9,898	9,693	9,814	9,957	10,188	9,627
西図書館	4,019	4,250	4,260	4,263	4,299	4,071	3,884
医学分館	7,940	8,287	8,357	8,511	9,363	8,840	8,290
東千田分室	318	377	430	453	546	947	772
計	51,795	55,018	54,964	55,586	57,255	57,498	52,721

7 蔵書数(電子ジャーナル)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
計	3,521	7,662	8,910	13,323	13,510	13,286	14,067



8 電子ジャーナル利用統計(対象は国立大学図書館コンソーシアムの主要出版社のみ)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
Full Textダウンロード	209,877	374,569	435,318	522,537	526,965	555,217	407,528

9 学外利用者貸出冊数

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
中央図書館	2,027	2,135	3,230	4,776	4,929	4,880	5,320
東図書館	168	184	168	406	345	458	844
西図書館	282	179	423	665	747	938	1,022
医学分館	481	311	1,210	1,406	1,297	1,314	1,441
東千田分室	340	629	1,017	662	984	1,226	1,167
計	3,298	3,438	6,048	7,915	8,302	8,816	9,794

広島大学図書館「リエゾン」 Vol.34 2009年10月30日 発行

発行 広島大学図書館 〒739-8512 東広島市鏡山1丁目2-2

電話 (082)424-6200

編集 広島大学図書館広報委員会